

2026年3月期 第3四半期

# 決算説明資料

2026年2月13日

株式会社ワコールホールディングス

証券コード：3591

## 目次

1. 2026年3月期 第3四半期 決算概況 . . . P.3
2. 2026年3月期 第3四半期 決算概況（セグメント別） . . . P.11
3. 財務・株主還元 . . . P.17
4. 次期中期経営計画策定の進捗 . . . P.20
5. Appendix . . . P.23

# 2026年3月期 第3四半期 決算概況

# 26/3期 3Q エグゼクティブサマリー

<p>売上収益</p> <p><b>1,303</b>億円</p>	<p>前年同期差 (前年同期比)</p> <p>-32億円 (-2.4%)</p>	<p>上期に引き続き、前期の<b>不採算事業の売却影響により減収</b></p> <p>国内は(株)ワコールやピーチ・ジョンが堅調に推移するも 海外は米・中・アジアの市況が回復せず、厳しい状況が続く</p>
<p>売上総利益</p> <p><b>751</b>億円</p>	<p>前年同期差 (前年同期比)</p> <p>-4億円 (-0.5%)</p>	<p><b>減収影響で減益</b>も、不採算事業の売却やBravissimo社買収に伴う 小売比率上昇等により売上総利益率は57.6%と前年同期から<b>1.1pt改善</b></p>
<p>事業利益</p> <p><b>31</b>億円</p>	<p>前年同期差 (前年同期比)</p> <p>+16億円 (+110.1%)</p>	<p>海外は米・中・アジアの不振とBravissimo社の火災影響で減益も 国内は(株)ワコールの<b>粗利率の改善</b>や<b>販管費の縮減</b>が奏功し黒字転換 ピーチ・ジョンの収益改善なども寄与し、<b>連結では増益</b></p>
<p>営業利益</p> <p><b>227</b>億円</p>	<p>前年同期差 (前年同期比)</p> <p>+116億円 (+104.0%)</p>	<p>固定資産売却益（新京都ビル、寮・社宅等）が寄与し<b>大幅な増益</b></p>

## 26/3期 3Q実績

(単位：百万円)

		25/3期 3Q		26/3期 3Q			
		実績	構成比・比率	実績	構成比・比率	前年同期比	修正計画 進捗率
売上収益		133,534	100.0%	130,344	100.0%	97.6%	75.0%
	ワコール事業（国内）	68,764	51.5%	68,472	52.5%	99.6%	77.9%
	ワコール事業（海外）	50,001	37.4%	50,004	38.4%	100.0%	71.1%
	ピーチ・ジョン事業	7,846	5.9%	8,399	6.4%	107.0%	73.0%
	その他	6,923	5.2%	3,469	2.7%	50.1%	84.6%
売上総利益		75,493	56.5%	75,125	57.6%	99.5%	74.2%
販管費		74,009	55.4%	72,007	55.2%	97.3%	70.0%
事業利益		1,484	1.1%	3,118	2.4%	210.1%	—
	ワコール事業（国内）	-254	-0.2%	2,647	2.0%	—	—
	ワコール事業（海外）	1,541	1.2%	104	0.1%	6.7%	—
	ピーチ・ジョン事業	33	0.0%	144	0.1%	436.4%	48.0%
	その他	164	0.1%	223	0.2%	136.0%	223.0%
営業利益		11,116	8.3%	22,673	17.4%	204.0%	112.2%
親会社の所有者に帰属する四半期利益		9,127	6.8%	13,791	10.6%	151.1%	113.0%

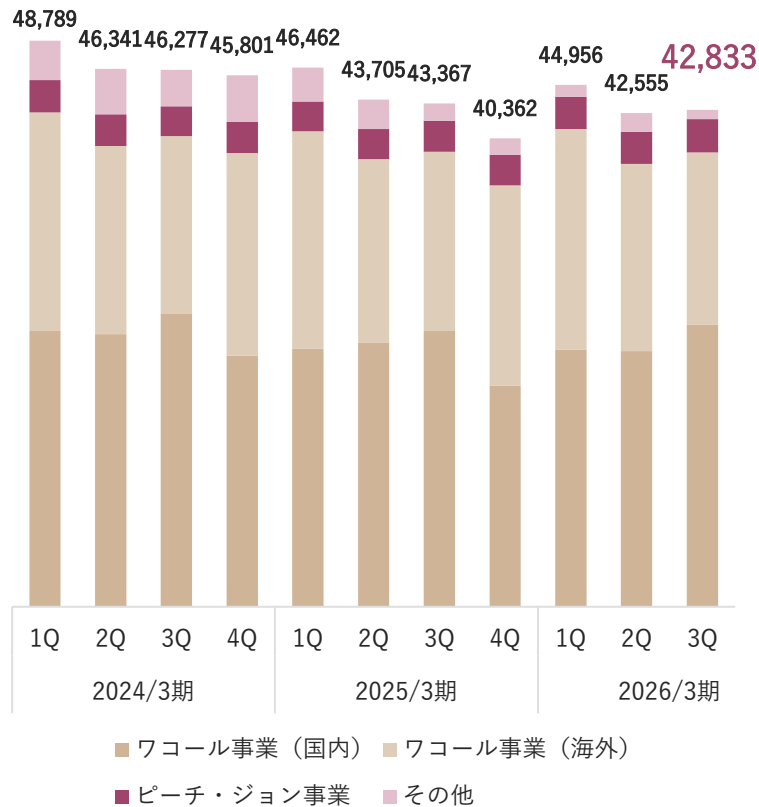
※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

# 売上収益・売上総利益・事業利益の四半期推移

売上総利益率の改善傾向に加え、国内の販管費縮減等により事業利益は前年同期比で16億円増

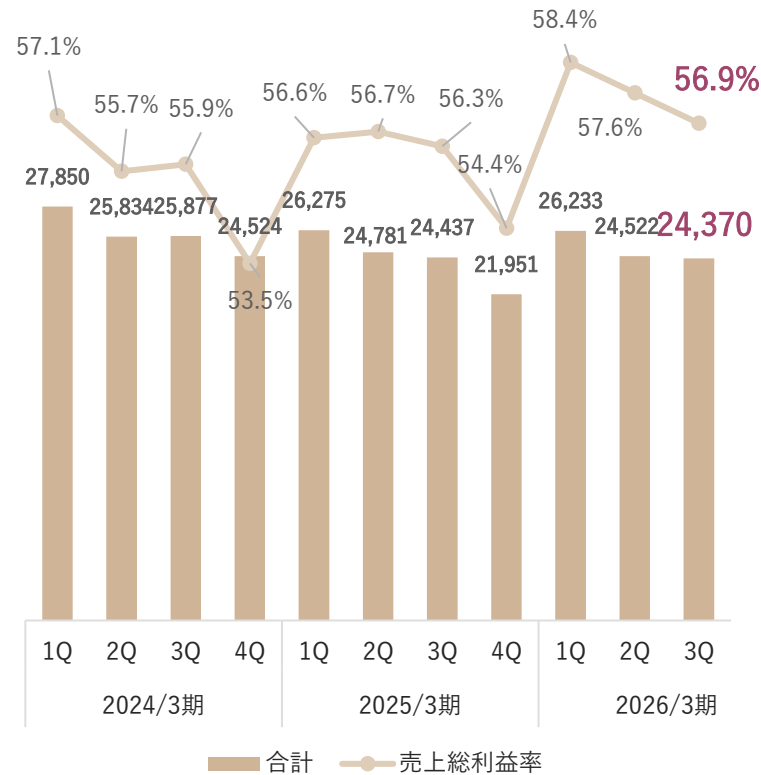
## 売上収益

(単位：百万円)



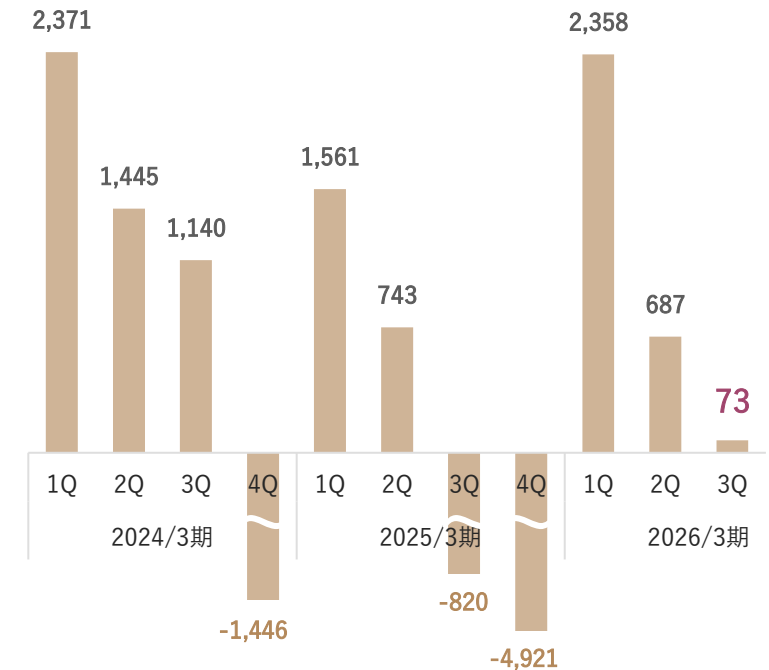
## 売上総利益

(単位：百万円)



## 事業利益

(単位：百万円)



## 26/3期 3Q 利益影響項目

(単位：百万円)

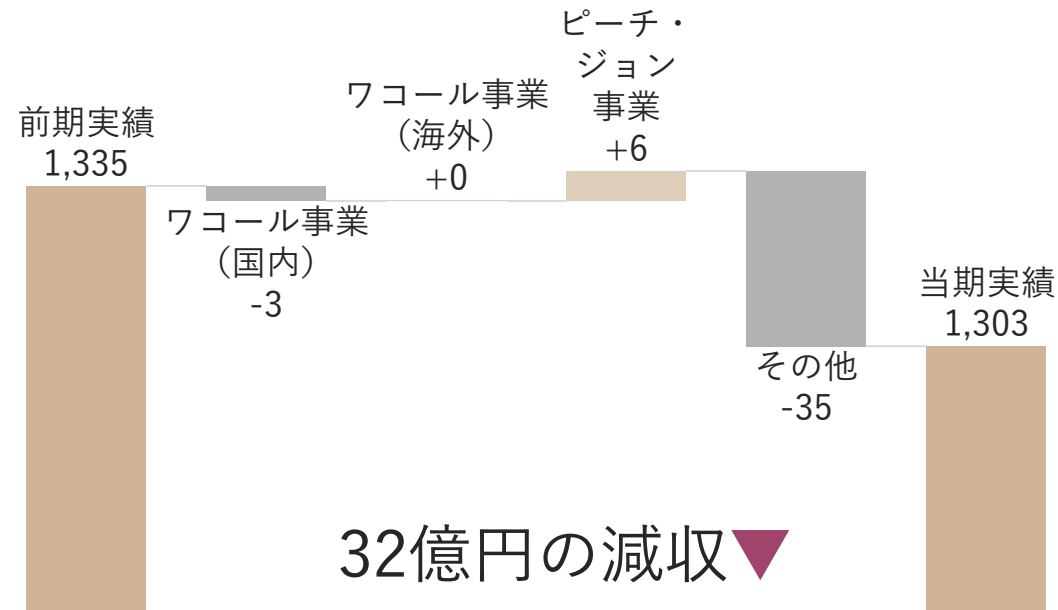
	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期		増減理由
			増減額	増減率	
事業利益	1,484	3,118	+1,634	+110.1%	
その他収益	10,806	21,452	+10,646	+98.5%	固定資産売却益およびBravissimo倉庫火災の受取保険金
その他費用	1,174	1,897	+723	+61.6%	Bravissimo倉庫火災の在庫評価損等
営業利益	11,116	22,673	+11,557	+104.0%	
金融収益	1,775	1,796	+21	+1.2%	
金融費用	404	566	+162	+40.1%	
持分法による投資損益	661	-1,787	-2,448	—	関連会社投資減損（タイワコール、ハウスオブローゼ）
税引前利益	13,148	22,116	+8,968	+68.2%	
法人所得税費用	4,157	8,450	+4,293	+103.3%	税引前利益の増加
当期利益	8,991	13,666	+4,675	+52.0%	
非支配持分損益	-136	-125	+11	—	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	9,127	13,791	+4,664	+51.1%	

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

# 26/3期 3Q 売上収益・事業利益の前年同期差

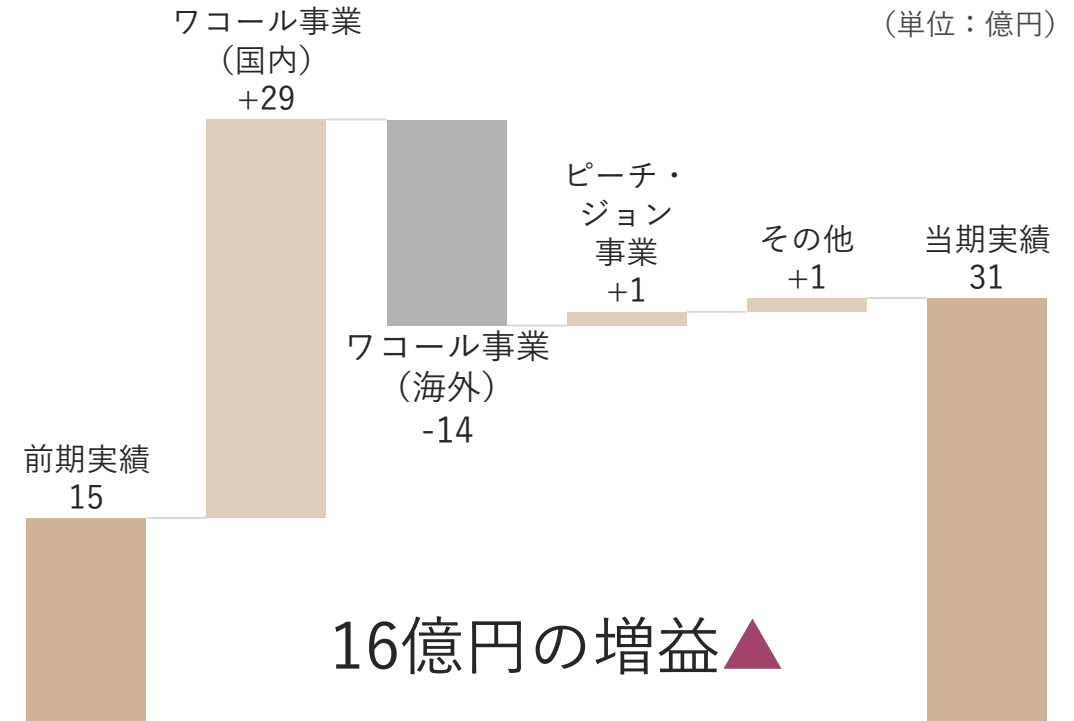
## 売上収益

(単位：億円)



## 事業利益

(単位：億円)



- 国内 (株)ワコール伸長もウンナナクール・ランジェノエル不振
- 欧州 前期買収したBravissimo社の増収影響+54億円
- 米・中 商況厳しく、米・中合わせて約40億円の減収
- ピーチジョン 新規顧客獲得施策が奏功し上期に引き続き好調に推移
- その他 ルシアン・七彩の連結除外による影響

- 国内 構造改革による粗利率改善、販管費の縮減
- 欧州 Bravissimo社は物流倉庫火災により事業利益には寄与せず
- 米国 減収影響や関税による原価高騰等で減益
- 中国 減収影響で減益も正価販売や不採算店撤退で粗利率は改善
- ピーチジョン 原価高騰や人件費増も、増収効果により増益

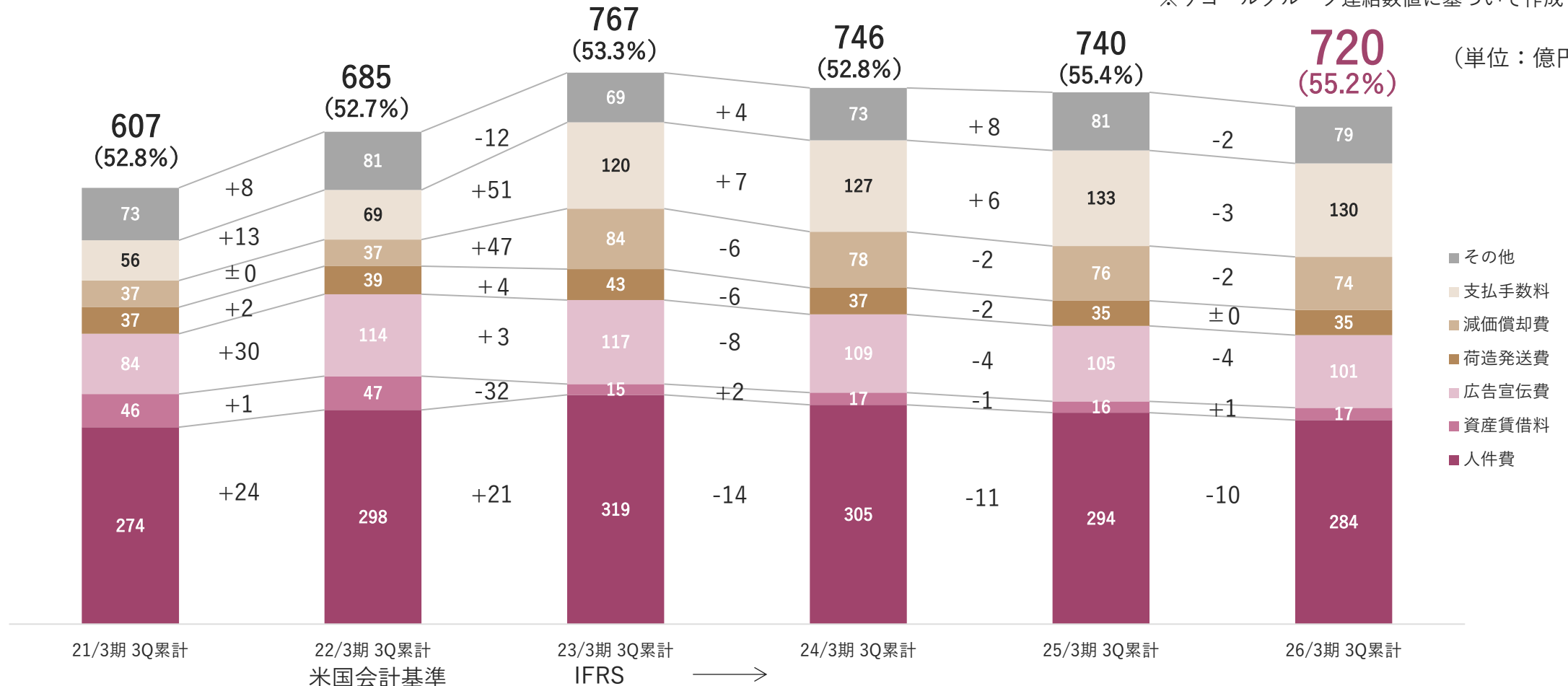


# 26/3期 3Q 販管費の推移

減収影響により販管費率は前年同期並みで推移したものの、  
各社コストコントロールが奏功し前年同期から20億円の削減

※ワコールグループ連結数値に基づいて作成

(単位：億円)



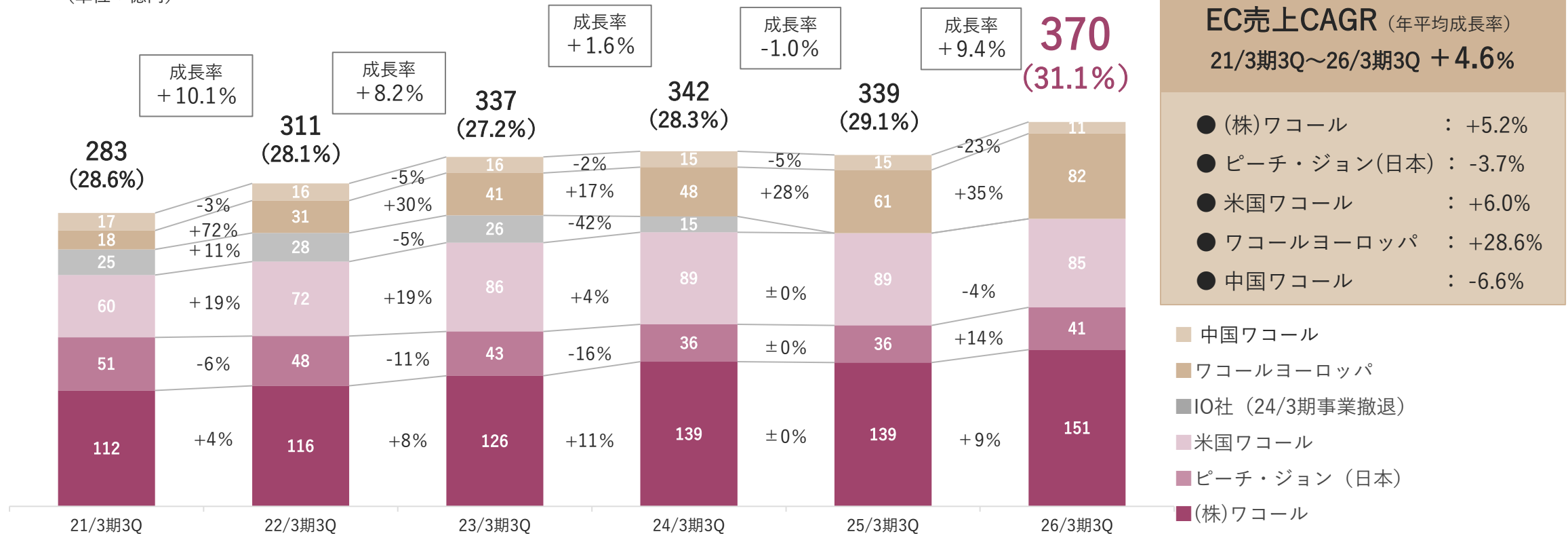
会計基準変更に伴い23/3期より減価償却費および支払手数料が増加

# 26/3期 3Q EC事業の進捗

(株)ワコールのEC売上の拡大と、Bravissimo社の買収が寄与し、  
5社合計のEC比率は前期末以降30%を超える水準で推移

(EC比率：(株)ワコール 23%、ピーチ・ジョン(日本) 52%、米国ワコール 47%、ワコールヨーロッパ 37%、中国ワコール 26%)

(単位：億円)



※連結調整前のデータに基づいて作成  
※邦貨換算ベース (為替影響含む)  
※各決算期のレートを使用 (為替影響含む)

# 2026年3月期 第3四半期 決算概況（セグメント別）

# 【セグメント別】ワコール事業(国内)の概況

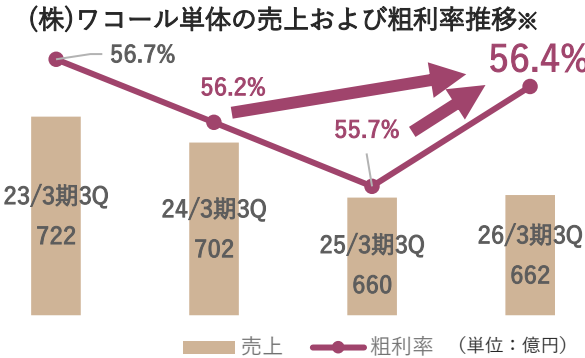


「AMPHI」の苦戦を「CW-X」「GOCOCi」などの好調がカバーし、(株)ワコールは3Q堅調に推移も、子会社の苦戦が響きわずかに減収

- チャンネル別  
実店舗：閉店影響・客数減により全体では減収も、既存店では充足率が改善  
EC：自社EC（前年同期比105%）・他社EC（前年同期比111%）と伸長し実店舗をカバー
- ブランド別  
◎ CW-X、アフォーダブル価格のWing・GOCOCiに加え、高価格のSaluteも伸長  
○ WACOALは上期まで苦戦するもリブランディング施策の効果発現により3Qから改善傾向  
▲ AMPHI、ナイトウェア、ウンナナクールは閉店影響、既存店売場縮小等で苦戦が続く

(株)ワコールの増収に加え、粗利改善と販管費縮減で黒字転換

- リバイズで取り組むコスト構造改革の成果により粗利率は前期、前々期を上回る水準まで改善
- 前期実施したリブランディング費用の反動やアセットライトに伴う減価償却費の減少、人事制度の変更による人件費の戻し入れ等の影響で販管費が縮減



子会社名	売上収益 (単位：億円)		事業利益 (単位：億円)		売上総利益率 (粗利率)		販管費率	
	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差
(株) ワコール ※日本基準	649	+3	24	+24	56.4%	+0.8pt	52.8%	-2.9pt

※ グループ内売上含む、日本基準ベース

# 【セグメント別】ワコール事業(国内)のトピックス

「CW-X」の商品ラインを拡充し、リカバリーウェアとプロ向け商品を発売開始  
中核ブランド「WACOAL」は一部施策で効果が発現

## 「CW-X」の商品拡充

### 拡大するリカバリーウェア市場に再参入

- リカバリーウェア「&RECOVERY」をブランド横断で展開。第1弾として「CW-X」よりトップス、タイツを自社ECと直営店で12月下旬に販売開始
- 初動2週間の売上は**前回比117%※1**
- 2026年1月中旬より他社EC6サイト、3月より百貨店等44店舗でも販売開始



### 大谷選手用に開発の「Arm Brace」をプロ向け販売

- 「Arm Brace（アーム ブレース）」は「CW-X」独自の**テーピング原理**と、**大谷選手のフィードバック**を融合させ商品化したひじ用サポーター
- 2026年2月より**プロ野球選手**および**メジャーリーガー限定**で販売を開始



## 「WACOAL」の商品改善施策が進展

### 重点商品の品番継続体制を構築し、安定供給を実現

- 同一機能商品はデザイン変更後も品番を維持する仕組みを構築
- 最も売上構成比の高いコレクションラインは在庫充足率が改善し、**売上機会ロスが一部解消**
- 商品レビューの蓄積や安定供給を実現し、コレクションラインのEC売上※2は**前年同期比117%**と大きく伸長「WACOAL」全体に占める

コレクションラインの在庫充足率の変化

	25/3期 3Q	26/3期 3Q
在庫充足率	66%	72%

前年同期比で6%改善

コレクションラインの割合



### 人気の機能ブラのシンプルデザインが好調

- 「重力ケアブラ ノンワイヤー(シンプル)」が**計画比102%**と堅調に推移
- 市場ニーズをとらえたデザインで、これまで取りきれていなかった**新規の20、30代の顧客を獲得**



※1 期間:2021年8月

※2 自社EC・他社EC計/集計期間; 2025年8月~2026年1月

# 【セグメント別】ワコール事業(海外)の概況

売上収益

500億円

前年同期差  
(前年同期比)

+0億円  
(+0.0%)

事業利益

1億円

前年同期差  
(前年同期比)

-14億円  
(-93.3%)

## 欧州は前期のBravissimo社買収効果で増収も、米中やアジア各社は苦戦

- 米国：「K字型」消費※1の進行により得意先、特に専業ECから仕入抑制を受け苦戦※2

※1 高所得者層は消費を増やし、中・低所得者層は節約志向を強めるなど消費行動が二極化する現象

※2 1月に経営破綻した米国百貨店サックスに対する債権には過年度に引当金計上済であり当期へのPL影響は無

- 欧州：Bravissimo社物流倉庫火災※3により機会損失が発生し、買収による増収効果は想定を下回る

※3 2025年6月27日当社HP開示済。自社ECは火災発生以降出荷を停止し、9月以降順次再開

- 中国：市況回復の遅れに加え、11月の大型商戦の不振も響き売上は前年同期を下回る  
店舗改装やタレント起用などのブランド価値訴求施策により売上回復を目指す

## 米欧中の主要各社で減益、Bravissimo社は火災により3Q累計で赤字

- 米国：減収影響及び一部関税影響により粗利率、販管費率ともに悪化  
関税対策を実施し、小売価格改定のほか生産拠点の最適化により影響軽減を図る
- 欧州：既存のワコールヨーロッパは粗利率改善も、火災影響によるBravissimo社の損失、  
英国の社会保険料増加・D2C強化に向けた広告宣伝費の投下が影響し減益
- 中国：減益も不採算店舗の撤退や正価販売の推進が奏功し、粗利率は改善傾向

子会社名	売上収益 (単位：億円)		事業利益 (単位：億円)		売上総利益率 (粗利率)		販管費率	
	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差
ワコールインターナショナル (米国)	172	-24	1	-8	46.1%	-2.8pt	45.6%	+1.1pt
ワコールヨーロッパ (Bravissimo社含む)	221	+47	3	-2	64.2%	+3.9pt	63.0%	+4.7pt
中国ワコール	54	-14	-7	-2	69.2%	+0.8pt	81.6%	+6.4pt



# 【セグメント別】ワコール事業(海外)のトピックス

Bravissimo社は火災後一時的に復調も足元不振、中国は不採算店舗を撤退し収益性の改善を図る

## Bravissimo社物流倉庫火災は影響継続

### EC再開後の9,10月は復調傾向も在庫不足が発生

- 6月火災発生後、2か月にわたりEC出荷停止し9月に再開
- 再開後EC売上は**想定を上回り9月、10月は好調に推移**
- 一方在庫不足やアクセス数減少等で**11、12月の売上は低調に推移**
- 逸失利益分の保険は精査に時間を要し**来期以降の計上可能性あり**

火災影響の通期着地見込

通期 影響項目	売上機会損失 <逸失利益>		在庫評価損他		保険金収入		合計	
	前回 発表	今回	前回 発表	今回	前回 発表	今回	前回 発表	今回
売上収益	-22億	-16億	—	—	—	—	-22億	-16億
事業利益	-10億	-9億	—	-2億	—	—	-10億	-11億
営業利益	-10億	-9億	-19億	-19億	+29億	+28億	0億	0億

### 1月に倉庫復旧が完了し今後の在庫不足は解消見込

- 1月17日~21日に臨時倉庫から元倉庫への在庫移転が完了
- 運用体制の再構築は2月末に完了予定
- 以降は**安定的な在庫確保が可能**

## 中国は採算性の改善と商品力の強化に注力

### 採算性の改善

### 2Q~3Qの半年間で不採算店舗14店舗を撤退

- 1Q実績を受け百貨店3、モール8、アウトレット3店舗撤退
- 4Qにおいても追加で15店舗を撤退検討中

### 店舗改装を実施し、一部店舗は12月単月で+20%伸長

- 店舗イメージを刷新すべく**上期中に3店舗を改装済**
- 追加で3月までに2店舗、4月以降に16店舗を順次改装予定

### 商品力の強化

### 市場ニーズに合うシンプルデザイン×人科研の知見を活かした付加価値商品を展開予定



現行の中国ワコール商品

新商品イメージ

- 市場ニーズはシンプルデザイン
- 26春夏からは**デザイン面での市場ニーズへの対応に加え、人科研の知見を活かした機能性商品**を展開予定

# 【セグメント別】ピーチ・ジョン事業の概況とトピックス

売上収益

84億円

前年同期差（前年同期比）

+6億円（+7.0%）

各種施策が奏功し全チャネルで伸長、特に他社ECが好調

➤ 新規顧客獲得のためのコミュニケーション戦略、商品戦略が引き続き奏功

事業利益

1.4億円

前年同期差（前年同期比）

+1億円（+336.4%）

原価高騰で売上総利益率は悪化も、増収効果でカバーし事業利益も大幅に伸長

➤ 賞与増などにより人件費は増加も、売上の伸長により全体の販管費率は改善

子会社名	売上収益 (単位：億円)		事業利益 (単位：億円)		売上総利益率 (粗利率)		販管費率	
	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差
ピーチ・ジョン連結	84	+6	1.4	+1	57.2%	-3.2pt	55.6%	-4.4pt

## 顧客起点の商品設計で新規層の継続獲得

前期より顧客データ分析を基に、**主要顧客層のニーズ**を踏まえた商品開発を強化。それら新商品が支持され、**新規顧客の獲得に成功**

## ターゲット層に響くタレント起用で購買意欲を喚起

冬シーズンに森香澄を起用したランジェリーコレクションが好評を博し、新規顧客獲得を後押し



「ナイスボディブラ」  
ミスティブーケ



「盛れるノンワイヤーブラ」



「リボンモチーフ」フロント  
ホックノンワイヤーブラ

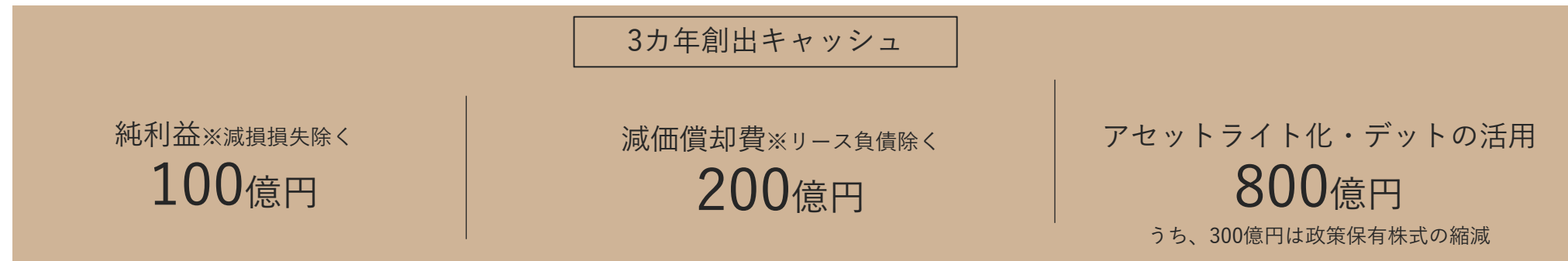


# 財務・株主還元

# 財務方針

2023年11月9日に開示した  
中期経営計画（リバイズ）資料より抜粋

1. ビジネスモデル改革と成長戦略を通じた収益力の改善を最優先課題として取り組むと同時に、棚卸資産（在庫）の圧縮や、政策保有株式の縮減、保有不動産の整理を進めることで、資本効率の改善を実現しROE向上を実現
2. 将来成長への投資を優先すると同時に、資本効率の改善に向けて積極的な株主還元を実施



総額 **1,100億円**

新規・既存事業への投資

**400億円**

- 成長に向けてIT・デジタル投資に注力
- 人的資本への投資

配当還元

**150億円**

- 連結業績・資産の売却状況を考慮しつつ、安定的な配当を継続

自己株式の取得

**550億円**

- 資本効率の改善を積極的に推進

# 財務戦略の進捗

区分	重点戦略	重点施策	25/3期 累計実績	リバイズ 累計実績	リバイズ 累計見込	リバイズ 目標数値	進捗
財務戦略	アセットライト化 ・デットの活用	棚卸資産の圧縮	1.9回転	—	2.1回転	2.5回転	構造改革の一環で在庫処分を実施 ※減収影響により回転率を下方修正
		保有不動産 の整理 (デットの活用含む)	約190億円	約454億円	約420億円～	500億円	実現性・妥当性を検証し、企業価値 向上に寄与しない不動産を整理 ※新京都ビル売却を含む
		政策保有 株式の縮減	約250億円	約293億円	約380億円	300億円	売却合意できた株式から順次売却し、 資本効率を改善 ※純資産比率：25/3期 18%、26/3期見込 12%
	資本政策	配当還元	約110億円	約157億円	約160億円	150億円	連結業績・資産の売却状況を 考慮しつつ、安定的な配当を継続
		自己株式の取得	約270億円	約395億円	約550億円	550億円	自己株式の取得を行い、 資本効率の改善を積極的に推進
			25/3期 実績	26/3期 実績	26/3期 見込	リバイズ 目標数値	進捗
ROIC			3%	—	6%	6%～7%	資本効率向上を目指し、 ROICを指標とした管理体制を構築
ROE			4%	—	6.5%	7%	資本効率の最適化を推進

# 次期中期経営計画策定の進捗

# 次期中期経営計画の公表延期について（再掲）

連結業績予想の修正に伴い、次期中期経営計画の公表を年内から2026年5月へ延期  
従来の前提に基づく計画では実効性・信頼性の確保が困難と判断



中計リバイズ：  
修正計画の遂行／業績未達要因の徹底的な分析・改善

次期中期経営計画策定：  
中計リバイズの徹底検証、抜本改革案の策定、実効力の伴った施策の立案

- 中計リバイズ取り組み成果の見極め
- 外部知見を活用した実効性、信頼性の高い施策検討
- 市場環境を踏まえた自社の事業構造の多角的な分析と転換

# 来期組織体制（2026年4月より）

次期中計策定に向けて改革の土台となる組織体制を刷新予定  
実効力の伴った成長戦略の策定及び構造改革加速に向けて歩を進める

## 国内事業（(株)ワコール）

持続的な成長・存続を目的とした**抜本的改革**を実行する**構造改革室**を新設。**5つの柱**で持続的成長に向けた改革を推進

### モニタリング強化



- ・部門コミットメントの進捗管理強化
- ・課題早期検知と対策、次善策の実施

### 生産性向上



- ・本部間連携の業務プロセス改善
- ・変革に対応したリソースシフト実施

### DX強化



- ・デジタルを活用した業務改革
- ・ボディデータ起点の新価値創出

### 非連続の成長



- ・M&A等を含む成長戦略推進
- ・全社ブランドマネジメント強化

### 企業文化・風土改革



- ・従業員体験（EX）の向上
- ・挑戦を肯定する文化の醸成

## 海外事業

今まで

各法人が戦略立案の実行を担うものの、各法人の意思決定の速度や実行力、グローバル本部主導のガバナンスに課題

ワコールHD グローバル本部

米国

欧州

中国

今後

HD社長直下の2本部体制へ再編。各エリアでの責任者の明確化により、意思決定から実行までのスピードを向上させ、HDとしてガバナンスおよび進捗モニタリングを強化

欧米本部

中国・アジア本部

ワコールHD経営企画

ワコールHD経営企画

意思決定・実行のスピードを向上させ、成長を加速

モニタリング強化および対策遂行により収益性を回復

# Appendix

# 26/3期 3Q 決算概況

(単位：百万円)

為替レート	1 \$	1 £	1 円
25/3期 3Q実績	152.57	195.43	21.15
26/3期 3Q実績	148.74	198.95	20.78

	25/3期 3Q実績	売上比	26/3期 3Q実績	売上比	対前年同期	
					増減額	増減率
売上収益	133,534	—	130,344	—	-3,190	-2.4%
売上原価	58,041	43.5	55,219	42.4	-2,822	-4.9%
売上総利益	75,493	56.5	75,125	57.6	-368	-0.5%
販売費及び一般管理費	74,009	55.4	72,007	55.2	-2,002	-2.7%
事業利益	1,484	1.1	3,118	2.4	+1,634	+110.1%
その他の収益	10,806	8.1	21,452	16.5	+10,646	+98.5%
その他の費用	1,174	0.9	1,897	1.5	+723	+61.6%
営業利益	11,116	8.3	22,673	17.4	+11,557	+104.0%
金融収益	1,775	1.3	1,796	1.4	+21	+1.2%
金融費用	404	0.3	566	0.4	+162	+40.1%
持分法による投資利益（損失）	661	0.5	-1,787	—	-2,448	—
税引前利益	13,148	9.8	22,116	17.0	+8,968	+68.2%
親会社の所有者に帰属する当期利益	9,127	6.8	13,791	10.6	+4,664	+51.1%

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正



# 26/3期 3Q 決算概況（セグメント別）

（単位：百万円）

為替レート	1 \$	1 £	1 元
25/3期 3Q実績	152.57	195.43	21.15
26/3期 3Q実績	148.74	198.95	20.78

	25/3期 3Q実績	構成比	26/3期 3Q実績	構成比	対前年同期	
					増減額	増減率
ワコール事業（国内）	68,764	51.5	68,472	52.5	-292	-0.4%
ワコール事業（海外）	50,001	37.4	50,004	38.4	+3	+0.0%
ピーチ・ジョン事業	7,846	5.9	8,399	6.4	+553	+7.0%
その他	6,923	5.2	3,469	2.7	-3,454	-49.9%
売上収益	133,534	100.0	130,344	100.0	-3,190	-2.4%
	25/3期 3Q実績	売上比	26/3期 3Q実績	売上比	増減額	増減率
ワコール事業（国内）	-254	-0.4	2,647	3.9	+2,901	—
ワコール事業（海外）	1,541	3.1	104	0.2	-1,437	-93.3%
ピーチ・ジョン事業	33	0.4	144	1.7	+111	+336.4%
その他	164	2.4	223	6.4	+59	+36.0%
事業利益（損失）	1,484	1.1	3,118	2.4	+1,634	+110.1%
	25/3期 3Q実績	売上比	26/3期 3Q実績	売上比	増減額	増減率
ワコール事業（国内）	9,231	13.4	21,659	31.6	+12,428	+134.6%
ワコール事業（海外）	1,576	3.2	327	0.7	-1,249	-79.3%
ピーチ・ジョン事業	23	0.3	141	1.7	+118	+513.0%
その他	286	4.1	546	15.7	+260	+90.9%
営業利益	11,116	8.3	22,673	17.4	+11,557	+104.0%

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

# 26/3期 3Q 決算概況（主要子会社）

（単位：百万円）

為替レート	1 \$	1 £	1元
25/3期 3Q実績	152.57	195.43	21.15
26/3期 3Q実績	148.74	198.95	20.78

	売上収益				事業利益（損失）				営業利益（損失）			
	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期		25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期		25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期	
			増減額	増減率			増減額	増減率			増減額	増減率
ワコール	64,550	64,885	+335	+0.5%	-47	2,390	+2,437	—	10,327	19,715	+9,388	+90.9%
ワコール インター ナショナル	19,561	17,158	-2,403	-12.3%	891	97	-794	-89.1%	900	116	-784	-87.1%
ワコール ヨーロッパ	17,452	22,147	+4,695	+26.9%	502	268	-234	-46.6%	302	240	-62	-20.5%
中国ワコール	6,799	5,410	-1,389	-20.4%	-471	-674	-203	—	-447	-652	-205	—
ピーチ・ジョン （連結）	7,846	8,399	+553	+7.0%	33	144	+111	+336.4%	23	141	+118	+513.0%
A i	2,417	2,419	+2	+0.1%	169	141	-28	-16.6%	170	139	-31	-18.2%

【海外主要子会社】（現地通貨ベース）（単位 米国：千US\$ ヨーロッパ：千£ 中国：千元）

ワコール インター ナショナル	128,208	115,356	-12,852	-10.0%	5,832	651	-5,181	-88.8%	5,894	779	-5,115	-86.8%
ワコール ヨーロッパ	89,300	111,318	+22,018	+24.7%	3,335	1,387	-1,948	-58.4%	2,308	1,248	-1,060	-45.9%
中国ワコール	321,467	260,342	-61,125	-19.0%	-22,256	-32,386	-10,130	—	-21,139	-31,347	-10,208	—

※ 原則、各国現地会計基準にて表示

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

## 26/3期 通期計画

(単位：百万円)

為替レート	1 \$	1 £	1 元
26/3期 修正計画	150.00	200.00	21.00
25/3期 実績	152.57	195.43	21.15

	25/3期 実績	売上比	26/3期 修正計画	売上比	対前年同期	
					増減額	増減率
売上収益	173,896	—	173,800	—	-96	-0.1%
売上原価	76,452	44.0	72,500	41.7	-3,952	-5.2%
売上総利益	97,444	56.0	101,300	58.3	+3,856	+4.0%
販売費及び一般管理費	100,881	58.0	102,800	59.1	+1,919	+1.9%
事業利益	-3,437	—	-1,500	—	+1,937	—
その他の収益	11,211	6.4	23,950	13.8	+12,739	+113.6%
その他の費用	4,486	2.6	2,250	1.3	-2,236	-49.8%
営業利益	3,288	1.9	20,200	11.6	+16,912	+514.4%
金融収益	2,170	1.2	1,850	1.1	-320	-14.7%
金融費用	591	0.3	780	0.4	+189	+32.0%
持分法による投資利益（損失）	813	0.5	-1,870	—	-2,683	—
税引前利益	5,680	3.3	19,400	11.2	+13,720	+241.5%
親会社の所有者に帰属する当期利益	7,218	4.2	12,200	7.0	+4,982	+69.0%

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期の数値を遡及修正

# 26/3期 通期計画（セグメント別）

（単位：百万円）

為替レート	1 \$	1 £	1 円
26/3期 修正計画	150.00	200.00	21.00
25/3期 実績	152.57	195.43	21.15

	25/3期 実績	構成比	26/3期 修正計画	構成比	増減額	増減率
ワコール事業（国内）	87,828	50.5	87,900	50.6	+72	+0.1%
ワコール事業（海外）	67,237	38.7	70,300	40.4	+3,063	+4.6%
ピーチ・ジョン事業	10,469	6.0	11,500	6.6	+1,031	+9.8%
その他	8,362	4.8	4,100	2.4	-4,262	-51.0%
売上収益	173,896	100.0	173,800	100.0	-96	-0.1%
	25/3期 実績	売上比	26/3期 修正計画	売上比	増減額	増減率
ワコール事業（国内）	-4,777	—	-1,400	—	+3,377	—
ワコール事業（海外）	1,480	2.2	-500	—	-1,980	—
ピーチ・ジョン事業	-194	—	300	2.6	+494	—
その他	54	0.6	100	2.4	+46	+85.2%
事業利益（損失）	-3,437	—	-1,500	—	+1,937	—
	25/3期 実績	売上比	26/3期 修正計画	売上比	増減額	増減率
ワコール事業（国内）	2,970	3.4	18,700	21.3	+15,730	+529.6%
ワコール事業（海外）	419	0.6	800	1.1	+381	+90.9%
ピーチ・ジョン事業	-266	—	280	2.4	+546	—
その他	165	2.0	420	10.2	+255	+154.5%
営業利益（損失）	3,288	1.9	20,200	11.6	+16,912	+514.4%

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期の数値を遡及修正

# 26/3期 通期計画（主要子会社）

（単位：百万円）

為替レート	1 \$	1 £	1 元
26/3期 修正計画	150.00	200.00	21.00
25/3期 実績	152.57	195.43	21.15

	売上収益				事業利益（損失）				営業利益（損失）			
	25/3期 実績	26/3期 修正計画	対前年同期		25/3期 実績	26/3期 修正計画	対前年同期		25/3期 実績	26/3期 修正計画	対前年同期	
			増減額	増減率			増減額	増減率			増減額	増減率
ワコール	82,369	82,937	+568	+0.7%	-2,542	630	+3,172	—	6,180	18,572	+12,392	+200.5%
ワコール インター ナショナル	24,917	23,829	-1,088	-4.4%	675	-450	-1,125	—	681	-449	-1,130	—
ワコール ヨーロッパ	25,201	30,991	+5,790	+23.0%	1,124	963	-161	-14.3%	857	1,983	+1,126	+131.4%
中国ワコール	9,085	8,377	-708	-7.8%	-736	-902	-166	—	-1,844	-893	+951	—
ピーチ・ジョン （連結）	10,469	11,500	+1,031	+9.8%	-194	300	+494	—	-266	280	+546	—
A i	2,862	2,865	+3	+0.1%	122	80	-42	-34.4%	121	80	-41	-33.9%

【海外主要子会社】（現地通貨ベース）（単位 米国：千US\$ ヨーロッパ：千£ 中国：千元）

ワコール インター ナショナル	163,305	158,863	-4,442	-2.7%	4,435	-3,000	-7,435	—	4,466	-2,990	-7,456	—
ワコール ヨーロッパ	129,493	154,955	+25,462	+19.7%	5,772	4,815	-957	-16.6%	4,399	9,915	+5,516	+125.4%
中国ワコール	430,546	398,917	-31,629	-7.3%	-34,834	-42,921	-8,087	—	-87,367	-42,496	+44,871	—

※ 原則、各国現地会計基準にて表示

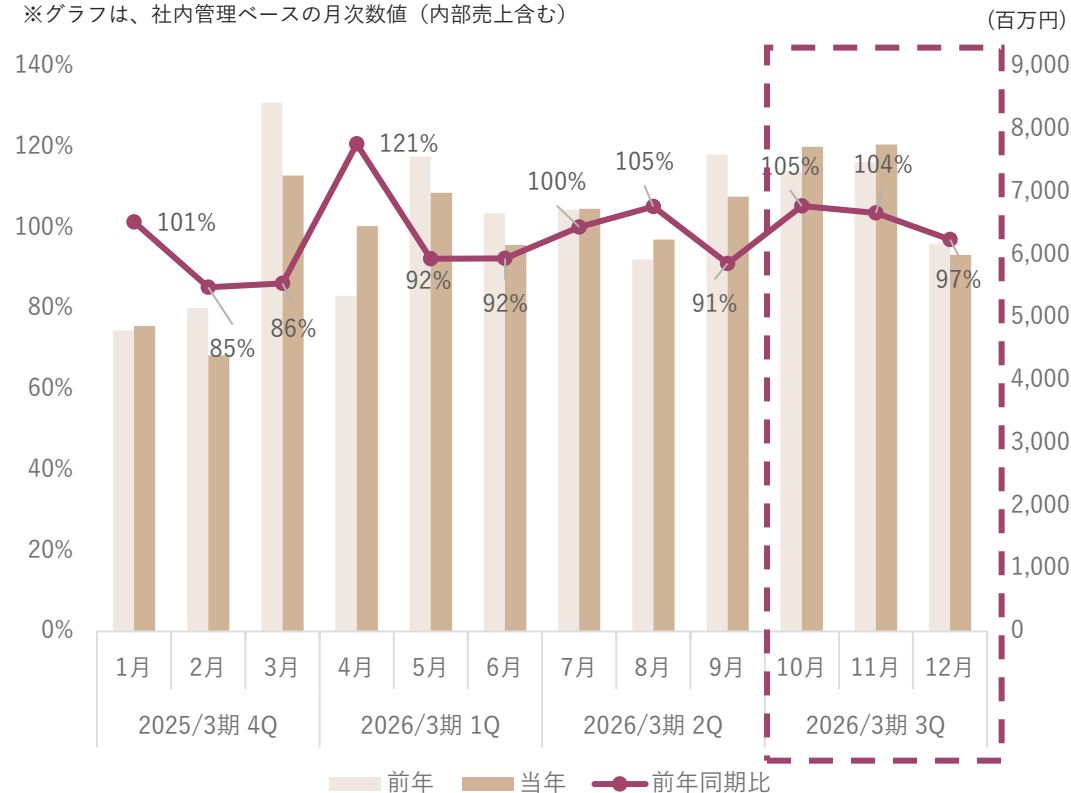
※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期の数値を遡及修正

# 国内主要子会社の売上月次推移

## (株) ワコール

3Q期間:前年同期比102% ▲3Q累計:前年同期比100% ▶

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）

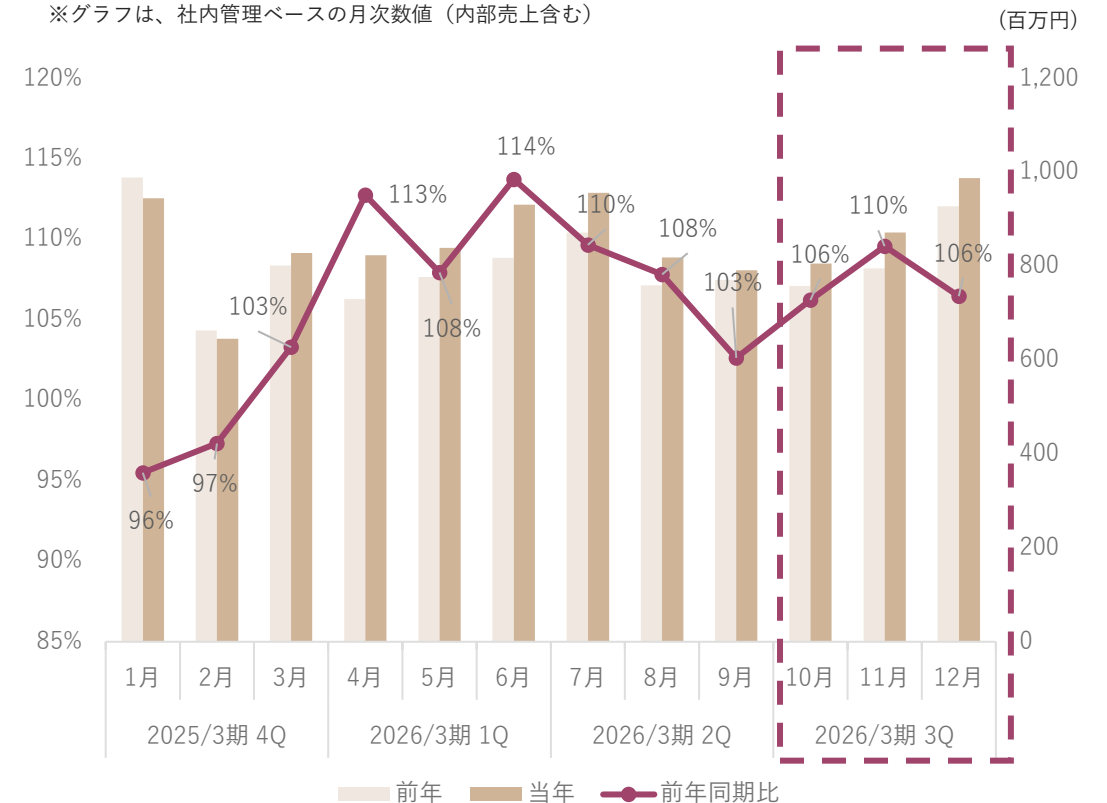


2025年10月 前年▲○ 自社EC、他社ECとも好調 ○実店舗堅調  
 2025年11月 前年▲○ 他社EC大型販促の実施期間前倒しで大幅伸長  
 2025年12月 前年▼△ 他社EC前月の反動 ×実店舗低調

## (株) ピーチ・ジョン

3Q期間:前年同期比107% ▲3Q累計:前年同期比109% ▲

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）

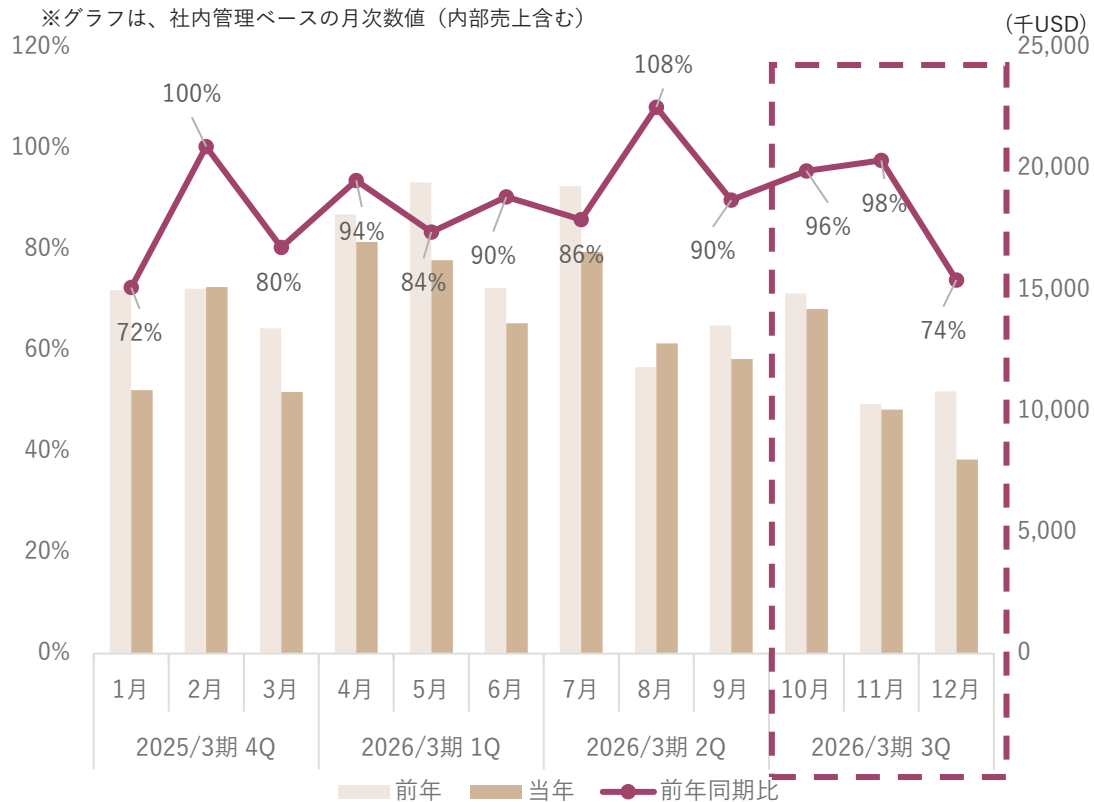


2025年10月 前年▲ ○人気タレント起用等により EC好調  
 2025年11月 前年▲ ○ EC、実店舗とも好調  
 2025年12月 前年▲ ○ EC好調 △実店舗堅調（既存店は前期超え）

# 海外主要子会社の売上月次推移①

## 米国ワコール

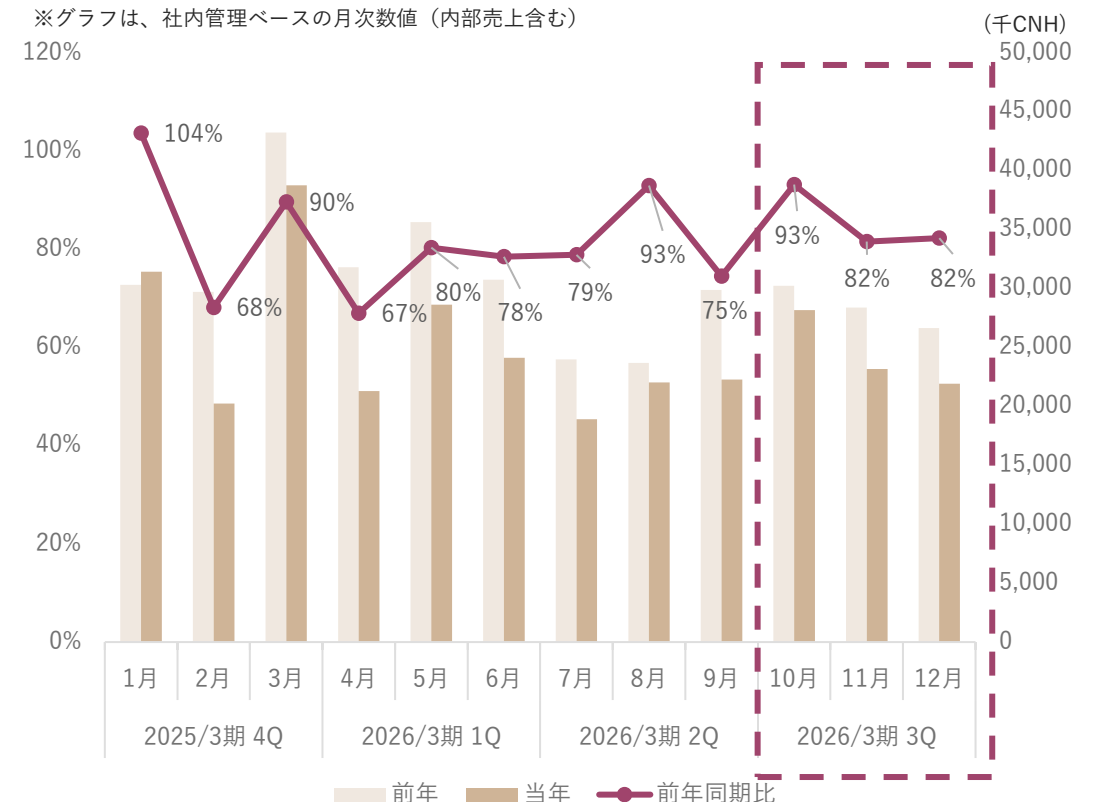
3Q期間:前年同期比90% ▼3Q累計:前年同期比91% ▼



2025年10月 前年 ▼ ○百貨店堅調 ○自社EC堅調 ×専門EC苦戦  
 2025年11月 前年 ▼ ○百貨店堅調 ×自社EC低調 ×専門EC苦戦  
 2025年12月 前年 ▼ ×百貨店苦戦 ×自社EC苦戦 ○専門EC堅調

## 中国ワコール

3Q期間:前年同期比86% ▼3Q累計:前年同期比81% ▼



2025年10月 前年 ▼ ×実店舗苦戦 ○MUSE起用によりEC好調  
 2025年11月 前年 ▼ ×実店舗苦戦 △EC客数増も購買率ふるわず  
 2025年12月 前年 ▼ ×実店舗、ECともに苦戦

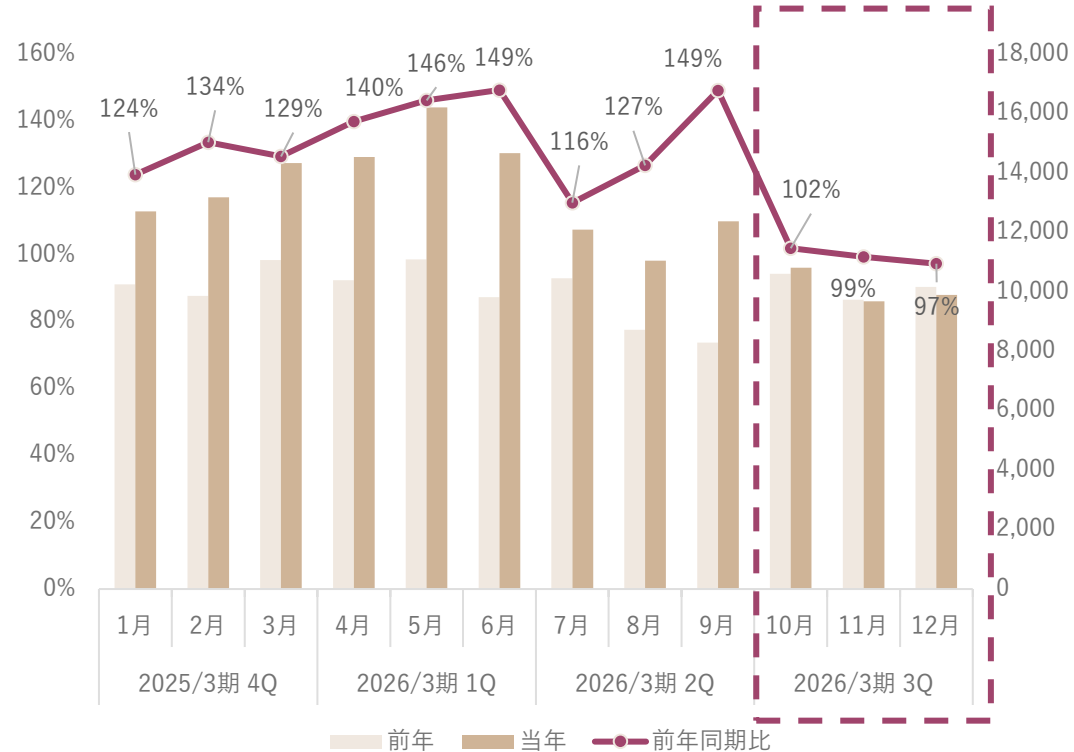
# 海外主要子会社の売上月次推移②

## ワコールヨーロッパ※Bravissimo社含む

3Q期間:前年同期比100%▶3Q累計:前年同期比125%▲

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）

(千GBP)



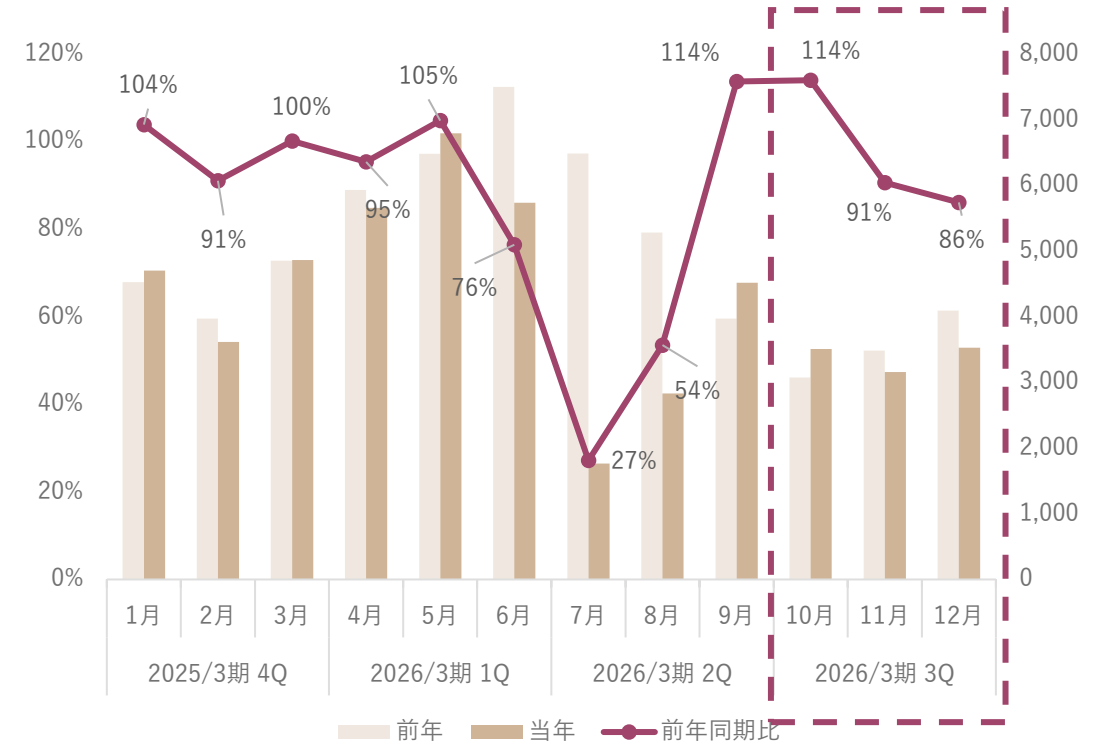
2025年10月 前年▲ ○ Bravissimo好調 ○ ドイツ好調  
 2025年11月 前年▼ × 専門店不調 ○ 大陸好調  
 2025年12月 前年▼ × Bravissimo低調 ○ 専門店好調 ○ 大陸好調

## Bravissimo社

3Q期間:前年同期比96%▼3Q累計:前年同期比81%▼

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）

(千GBP)



2025年10月 前年▲ ○ 自社EC再開後需要の反動により好調  
 2025年11月 前年▼ × 倉庫火災後の在庫不足で低調 ○ 北米好調  
 2025年12月 前年▼ × 倉庫火災後の在庫不足で低調



# 連結財政状態計算書 (BS)

(単位：億円)

	2025年3月末	構成比	2025年12月末	構成比	増減
現金及び現金同等物	234		① 366		+132
営業債権及びその他の債権	168		173		+5
棚卸資産	502		508		+6
その他	95		86		-9
流動資産合計	999	36.6%	1,133	39.2%	+134
有形固定資産・無形資産・使用権資産	680		② 580		-100
のれん	152		166		+14
その他の金融資産	420		③ 537		+117
その他	477		474		-3
非流動資産 計	1,729	63.4%	1,757	60.8%	+28
資産合計	2,727		2,890		+163
	2025年3月末	構成比	2025年12月末	構成比	増減
営業債務及びその他の債務（買掛債務）	158		128		-30
借入金	145		127		-18
リース負債	126		113		-13
繰延税金負債	142		④ 206		+64
その他	205		234		+29
負債 計	776	28.5%	808	27.9%	+32
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,920		⑤ 2,053		+133
非支配持分	31		29		-2
資本 計	1,951	71.5%	2,082	72.1%	+131
負債及び資本 合計	2,727		2,890		+163

① 新京都ビル等の  
固定資産売却による現預金増加

② 新京都ビル等の売却による  
有形固定資産の減少

③ 投資有価証券の時価評価上昇

④ 有価証券評価差額の増加による

⑤ 当期利益の増加

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期の数値を遡及修正

# (参考) 成長投資・減価償却費・政策保有株式売却状況

## ■リバイズ期間の成長投資

成長投資の内訳	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 3Q実績
ワコール / IT関連※1	12億円	10億円	5億円
ワコール / 直営店・建物関連※1	3億円	8億円	18億円
国内子会社関連※1	8億円	10億円	3億円
海外・子会社関連※1	11億円	11億円	8億円
Bravissimo社の株式取得に係る投資額	—	約90億円	—
合計	約34億円	約129億円	約34億円

※1 設備投資額

## ■リバイズ期間の減価償却費

	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 3Q実績
減価償却費※2	約62億円	約61億円	約45億円

※2 減価償却費から、リース負債の返済による支出額をネット

## ■リバイズ期間の政策保有株式の売却状況

	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 3Q実績
完全売却銘柄数	10	5	3

# (参考) ワコールのブランド展開 (国内)

中核子会社である（株）ワコールでは徹底した「顧客起点」のブランドマネジメントを推進し、提供価値が明確な魅力あふれるブランドの育成を目指す。現在、レディスインナーウェアを中心に12のブランドを展開

## 国内における レディスインナーウェアのブランド別価格帯

ハイプレミアム  
プレミアム  
ベター  
モデレート  
アフォーダブル  
コストセービング

Salute Yue

WACOAL

Wing AMPHI GOCOCI

コンディショニング  
ウェア

レディス  
インナーウェア

メンズ  
インナーウェア

レディスインナーウェアからの  
派生ブランド

yojoy

Remamma™

WACOAL



CW-X

1991年に誕生。ワコールの人間科学研究をもとに独自のテーピング原理を応用して開発されたコンディショニングウェアブランド。特にスポーツタイツは、筋肉や関節の負担を軽減し、アスリートから一般ユーザーまで幅広い支持を得る



WACOAL MEN

2014年に誕生。ワコールの設計技術を活かして開発されたメンズインナーウェアブランド。フィット感、肌触り、動きやすさの三要素を高次元で兼ね備え、飽きることのない上品で華やかなスタイリッシュさを実現

## レディスインナーウェアのブランド別コンセプト



WACOAL

人体科学に基づいた設計と上質なもののづくりを強みとし、国内外で展開するワコールグループの中核ブランド。ブランドコンセプトは「愛するわたしへ。Love your moment.」すべての一人ひとりに、「自分を見つめ、自分を愛せる瞬間」を



Wing

1975年に誕生。国内量販店やECサイトを中心に展開。「生活するからだ」と会話する」をコンセプトに、機能とデザインにこだわり、さまざまなからだやこころの変化に応えるアイテムを提供



Salute

1979年に誕生。確かなボディメイク機能と高いデザイン性を兼ね備え、セクシーであることを自由に愉しめるインナーウェアブランド。ブランドコンセプトは「劇的セクシー」



Yue

2021年に誕生。ものごとの理由を表す“由縁”から着想した名をもつ。厳選された素材、丁寧な縫製、美しいフォルム設計により、“最高で最良のここちよさ”と豊かな日常を提供



AMPHI

2006年に誕生。国内直営店やECサイトを中心に展開。トレンドを取り入れたデザインと軽やかなつけごちで、“今の気分”に寄り添うアイテムを提供

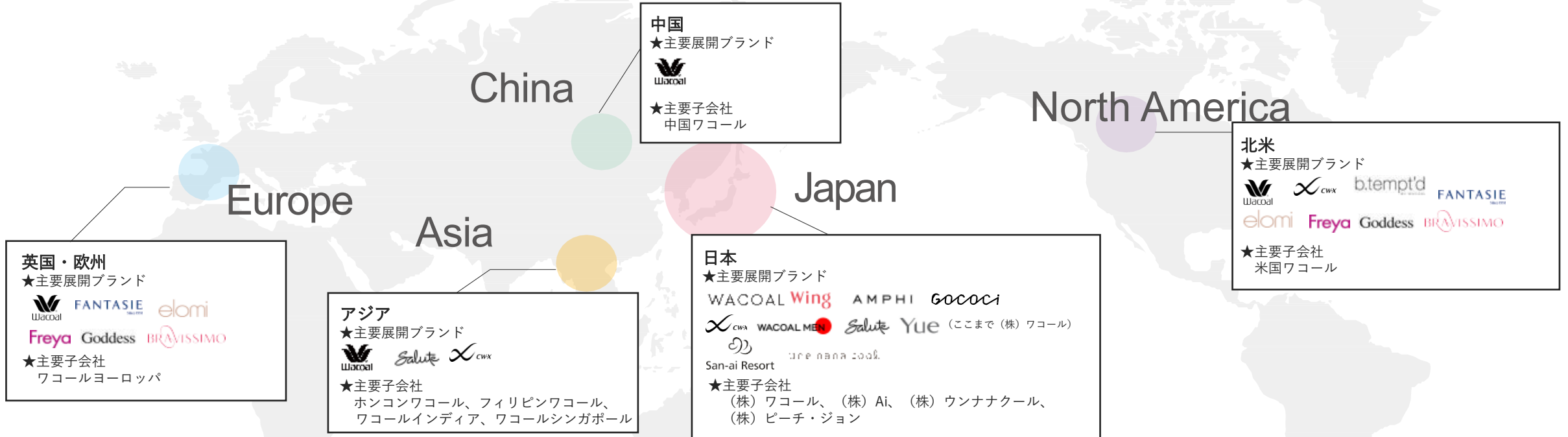


GOCOCI

2017年に誕生。実店舗、ECサイトを含む国内の幅広いチャネルでノンワイヤーアイテムを中心に展開。インナーウェア視点から、おしゃれをより楽しくするアイテムを提供

# （参考）ワコールのブランド展開（海外）

世界各国の文化やニーズに寄り添いながら、グローバル市場で魅力あるブランドを展開



b.tempt'd

2009年に米国で誕生。フェミニンで軽やかな雰囲気が魅力の若年層向けランジェリーブランド。トレンド感のあるデザインと軽いつけごちで、気分を高めるアイテムを提供し、自分らしさを楽しむ女性たちからの支持を得る



elomi

2008年に英国で誕生。D～Kカップに対応したフルフィギュア向けランジェリーブランド。豊富なサイズ展開とサポート力を兼ね備え、体型に関係なく自分らしい美しさを表現できるデザインが特長



FANTASIE

1951年に英国で誕生。上品でクラシカルなテイストを大切にしたフルバスト向けブランド。大人の女性に向けたしっかりとしたサポート力と高品質な素材使用で、安心感とエレガンスを提供



BRAVISSIMO

1995年に英国で誕生。D～Lカップの女性向けに特化したランジェリーブランド。「自分にぴったり合う」ことを重視し、フィット感と快適性のあるアイテムを提供



Freya

1998年に英国で誕生。Dカップ以上の女性に向けた、自由でアクティブなライフスタイルを提案するブランド。カラフルでポップなデザインが特徴で、機能性と遊び心を両立



Goddess

2002年にブランド買収。実用性とサポート力を重視したフルフィギュア向けブランド。シンプルでありながら機能的なデザインが特徴

# ディスクレーマー

この資料に掲載されている情報のうち、将来の業績に関する見通しについては、本資料の作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、その実現・達成を保証又は約束するものではありません。また今後、予告なしに変更されることがあります。

これらの情報の掲載にあたっては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りに関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

## IRお問い合わせ先

株式会社ワコールホールディングス

IRサイト：<https://www.wacoalholdings.jp/ir/>

お問合せ先：ir-wmg@wacoal.co.jp

## IR情報の発信



株式会社ワコールホールディングスIR・広報

[https://x.com/Wacoal\\_IR\\_PR](https://x.com/Wacoal_IR_PR)



株式会社ワコールホールディングスIR

[https://note.com/wacoal\\_ir](https://note.com/wacoal_ir)